



アーキテクト・ガーデン 2016 建築祭 参加プログラム報告

2016.09.08

アーキテクトガーデン実行委員会

主催：公益社団法人 日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部

■ARCHITECTS GARDEN 2016 参加プログラム

★講演会・シンポジウム

- JIA 関東甲信越支部・環境委員会 車座セミナー「これからの土壁の家」
ー現代人にとっての、住まい・まちなみを考えるー
主催：環境委員会+まちなかで土壁の家をふやす会
- JIA 建築家と考える暮らしと住まい「住宅のコストをデザインする」
ー 長く住み続けるためのコストとクオリティ ー
主催：住宅部会
- 環境セミナー
「信州“準寒冷地温熱教室 2016”」第1回
主催：長野地域会
- 建築家が取り組む建築相談
「建築相談の支援制度・同潤会上野下アパートメントの建替え」
主催：建築相談委員会
- JIA 杉並土曜学校
「空き家・空き地活用フォーラム」
主催：杉並地域会
- 写真家中川道夫氏とめぐる横浜の隠れた歴史ー撮り歩き
ー 水の中の都市ー横浜「関外」旧吉田新田エリアをめぐる ー
主催：建築家写真倶楽部
- シンポジウム「まち+アーティスト+建築家」
第1部 大地の芸術祭／第2部 その他のまちでの活動、今後の展望
主催：デザイン部会

- SUMAI セミナー PART23
「デザインカが住宅を変える」

主催：住宅部会

- JIA 目黒地域会 第5回 街かどトーク
「青木区長が語る目黒の街づくり」

主催：目黒地域会

★展示・ワークショップ

- 第25回東京都学生卒業設計コンクール
- 新宿駅西口プロムナード・ギャラリー展

主催：学生デザイン実行委員会

主催：ミケランジェロ会

★街歩き・見学会

- 第13回 城南散歩
ー 大森海岸から品川宿までの旧海岸線を辿って ー
- 市民住宅講座 2016「街」にでて考えよう、住まいと暮らし
第13回「目白・池袋」に近代化の足跡を探す
- 中野まちあるき
東中野～青梅街道 史跡めぐり

主催：城南地域会＋城南・風景とまちづくりクラブ

主催：住宅部会

主催：中野地域会

- 渋谷駅の記憶シリーズ3
桜丘地区変貌直前トレッキング
主催：渋谷地域会
- 市ヶ谷・富士見・神楽坂
ー 外濠をめぐる凸凹探検まち歩き ー
主催：JIA 千代田地域会・JIA 新宿地域会・
法政大学エコ地域デザイン研究センター
- 世田谷の地域風景資産を歩く
主催：世田谷地域会
- まちなみ景観賞を授賞した大谷石の街並み見学会
主催：栃木地域会

★相談会

- 建築家が取り組む建築相談 2016
主催：建築相談委員会

★建築祭 2016 群馬

- 第1回 JIA 関東甲信越支部大会「ここにあるタカラものー建築まちづくりの七転び八起きー」／主催：関東甲信越支部
日時：6月10日(金) - 6月12日(日) 場所：前橋・高崎
内容：富岡製糸場見学バスツアー、支部会議、「23 地域会発表会／ここにあるタカラもの」、前橋まち歩き
メインシンポジウム1「歴史の中のタカラもの」、メインシンポジウム2「街づくりのタカラもの」
空き家・空き地コンペプレゼンテーション、公開審査、展示(公募行事作品・学生設計作品)
「地域のタカラを世界に繋ぐ／地域文化と建築」建築家プレゼンテーション、コンペ表彰、音楽演奏



アーキテクト・ガーデン2016

講演会・シンポジウム

これからの土壁の家
～ 現代人にとっての 住まい・まちなみを考える ～

主催

まちなかで土壁の家をふやす会
支部・環境委員会

日時: 2016年5月29日(日) 15:00～17:30

場所: JIA館1階・建築家クラブ

講師:

高橋昌巳 / 遠野未来 / 山田貴宏 / 安井昇(建築家)

シンポジウム・モデレーター: 中村謙太郎(編集者)

パネリスト:

日高保 / 伊藤寛 / 林美樹 / 高橋昌巳 / 遠野未来
/ 安井昇 / 山田貴宏(建築家)

進行:

湯浅剛 / 寺尾信子・横山慎司(支部環境委員会)

参加者: 61名



[配布資料]

まちなかで土壁の家をふやす会のメンバーへの「土壁」に関する質問と回答で構成された、たいへん興味深い小冊子です

前半のセミナーでは、まず高橋昌巳氏と遠野未来氏から「まちなかで土壁の家をふやす会」の活動や、会員建築家の実例やデザイン、考え方などをご紹介頂きながら、「土壁」をキーワードにした、これからの住まいとまちなみにおける、さまざまな可能性についてお話をさせて頂きました。

次に山田貴宏氏から「土壁の家の温熱性能」をテーマに、2020年に適合義務化が予定されている省エネ基準とのかねあいや対応方法、そして土壁のもつさまざまな性能(湿度調整など)について、わかりやすいデータをもとに御紹介頂きました。

最後に、安井昇氏からは「土壁の家の防火性能」について、さまざまな燃焼実験に基づいた、土壁や木材のもつ性能と、法改正の実状と設計の可能性について、楽しくお話をさせて頂きました。

後半は、モデレーターの中村謙太郎さんを中心に、車座シンポジウムを行いました。

まず中村さんが、日本の土壁の歴史と現在の再評価について説明をされた後、環境委員会メンバーで考えたパネリスト(建築家)への質問をベースにしながら、土壁のもつ様々な魅力やデザイン、土壁を通した新たな暮らしやまちづくりの提案、土壁のコストや左官職の課題など、パネリストを交えて活発な意見交換が行われました。「土壁・真壁の家は東京のと真ん中でもできます。やっています。法規も通ります。」という高橋昌巳さんの一言には、たいへん説得力がありました。

会場からも多様な質問がありました。「つべこべ言わずに、土壁を塗ってみな」という左官職の方の一言からは、実践し、体験して初めてわかることの重要性を感じました。多くの方に御参加頂いて、活気のあるシンポジウムとなりました。「土壁」から広がる新たなデザイン、暮らし、そしてまちづくりなど、参加者には「土壁」が身近なものと感じられる良い機会になったのではないのでしょうか。



参加者61名、登壇者8名、委員3名の、計72名という、熱気あふれるシンポジウムでした。

JIA関係者よりも、土壁に興味を持つ一般の方や学生、設計・施工の関係者が多かったようです。

【日時】 2016年6月11日(土) 11:00-12:30

【会場】 リビングデザインセンターOZONE

関東甲信越支部住宅部会では、公正・中立の立場から一般の方々へ暮らしと住まいに関するセミナーを開催しています。1995年の阪神淡路大震災を機に始まったこの活動は既に20年を超え、現在も毎月2回開催しています。

建築家個人や作品紹介を目的としていないこの活動は、住宅部会内に「市民住宅講座WG」を設け、建築家の職能に照らし住宅部会として発信するメッセージと内容をコーディネーターと講師陣が協議しながら運営しています。

6月11日のアーキテクト・ガーデンで開催したシンポジウムは「住宅のコストをデザインする」をテーマに、コストとクオリティの視点から長く住み続ける住まいについて取り上げました。

耐用年数と寿命、建替えサイクル。LCCとトータルコスト。コストによる制約に馴染むものと馴染まないもの等。

講師役の大川直治会員と共に参加者とのディスカッションも交えて行われました。

コーディネーター・講師：郡山毅、大川直治



平成25年省エネ法(改正省エネ法)により300㎡以上の建築には省エネルギー措置に関する届け出が義務化され、長野県では300㎡以下の住宅新築も含めた長野県地球温暖化対策条例に係わる書面の提出が求められています。

ソフトの入力項目にそった届出書類を作成し、出力される住宅の性能値のみならず、地域の環境に基づいた居心地の良さや、快適さ等の肌感覚で表現される気持ちの良い住まいづくりの考え方を学ぶため、辻充孝先生をお招きし全6回のセミナーを開催します。

第1回 信州“準寒冷地温熱教室2016”

講師：辻充孝氏(岐阜県立森林アカデミー准教授)
 開催日：2016年 6月18日(土)13:00~17:00
 会場：塩尻市総合文化センター
 参加者：76名(会員30名・所員12名・一般34名)



「地域の特性を生かすパッシブデザインの10のステップ」

- ステップ1 「自分の家づくりの原則は」
- ステップ2 「気候特性を読む」
- ステップ3 「地域環境を読む」
- ステップ4 「暮らし方を読む」
- ステップ5 「プランニングを行う(即日設計)」



<スケジュール>

- 第2回 7月16日(土)
 ステップ6 「躯体性能をデザインする①」
 温熱性能の基本、断熱性能の効果
 目標性能の決め方、断熱性能の計算
- 第3回 8月6日(土)
 ステップ6 「躯体性能をデザインする②」
 防露設計に計算、気密性能の重要性
- 第4回 9月3日(土)
 ステップ6 「躯体性能をデザインする③」
 パッシブ計算のキモ、日射熱制御の効果
- 第5回 10月1日(土)
 ステップ7 「エネルギー性能をデザインする」
 設備仕様の検討
 ステップ8 「シミュレーションを行う」
 一次エネルギー計算を使う
- 第6回 11月5日(土)
 ステップ9 「環境性能を実測する」
 ステップ10 「総合的に考える」
 断熱、エネルギー以外の性能設計
 地域素材の選定

※ 勉強会の始めに『地域材利用の今』として最新の地域材利用のミニセミナーや、午前の時間を利用した塩尻周辺のまちあるき等も行います。

※ カリキュラムは準寒冷地の温熱設計技術の基本が身に着く内容としてテーマを組み立てる、毎回宿題を提出することにより参加者に便利なツールが直接送られます。

【開催日時】 2016年6月18日（土） 13：30-16：00

【開催場所】 AGC studio （旭硝子ショールーム3階）

始めに、セミナーを開催した今年の水無月は文字通りの空梅雨で夏の首都圏水不足が心配されます。

この文が掲載される頃には、水不足と熊本地震被災が治まっていることを祈念します。



当日のセミナーの様子

さて、相談委員会主催の今回セミナーの主題は、「消費者が抱える建築紛争と紛争解決の支援制度」、「同潤会上野下アパートメントの建替えを語る」というテーマで、東京都消費生活総合センターの池田様、住宅リフォーム・紛争処理支援センターの青木様、および、元同潤会上野下アパートメント建替え組合理事長様と建替コンサルタントという多彩な顔ぶれの講師の皆様により、大変に充実したセミナーとなりました。

池田様と青木様には、相談業務の概要や相談事例を紹介いただき大変に参考になりました。

組合理事長様と建替コンサルタントの皆様からは、マンションの建替えの困難さにつきお話いただき、参加者の皆さんにとっても今後の仕事等で貴重な参考になると確信しました。

講師の方々も含めて56名の方に参加いただきました。

講師の皆様まことにありがとうございました。

また、この場をお借りして、セミナー開催にご協力いただきました、AGCstudio様始め、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

セミナーWG主査 高塚 博志

第1回「杉並・空き家・空き地活用フォーラム」

2016 JIA suginami 杉並土曜学校

空き家・空き地の活用を実践している方々をお招きしてご紹介いただけます。

日時：2016年6月18日(土) 14:00~17:00 開場13:30
会場：細田工務店 2階会議室
定員：50名
参加費：500円

参加予定者 (五十名程)
斉藤志野歩さん (株式会社N9.5)
竹之内祥子さん (okatteにしおきオーナー)
樋口啓子さん (オープンリビングけやきの見える家)
村上 譲さん (Buttondesign)
矢田浩明さん (NPOコレクティブハウジング社理事) 他

年間テーマ
「あや?おや!こんな使い方!?!」
～地域に開く空き家・空き地活用術～



主催：(公社)日本建築協会 関東甲信越支部 杉並地域会
後援：杉並区・杉並建築会
協賛：(株)細田工務店

アーキテツ・ガーデン2016 建築家公式プログラム
※CPD認定プログラム(申請中)

2016年度 JIA杉並土曜学校
年間テーマ
「あや?おや!こんな使い方!?!」
～地域に開く空き家・空き地活用術～

2016 JIA suginami 杉並土曜学校

私たちの住む杉並区も「空き家・空き地」が目立つ時代になりました。ポストには売却物件募集のチラシが毎日届き、土地が細分化され三階建ての住宅も馴染みの景観になりつつあります。戦後の70年私たちは公共という言葉でどう捉えてきたか? 「公」は役所の施設でものをさし、「共」は前さんでやることをさす。などというも自然のなりゆきかもしれません。私たちの「土曜学校」はこうした動きを慎重にみつめながら、新しい試みを提案したいと思います。

第1回
6月18日(土)
14:00~17:00 開場13:30
杉並・空き家・空き地活用フォーラム

参加予定者(五十名程)
斉藤志野歩さん(株式会社N9.5)
竹之内祥子さん(okatteにしおきオーナー)
樋口啓子さん(オープンリビングけやきの見える家)
村上 譲さん(Buttondesign)
矢田浩明さん(NPOコレクティブハウジング社理事) 他

第2回
9月10日(土)
14:00~17:00

「難問解決! まち、いえ、あきち(仮)」
まちのオープンスペースを考える

第3回
11月19日(土)
14:00~17:00

「難問解決! まち、いえ、あきち(仮)」
木造密集地域と高齢者

第4回
2月18日(土)
14:00~17:00

「難問解決! まち、いえ、あきち(仮)」
空き地・空き家と子どもたち

会場：株式会社 細田工務店
・JR中央線「阿佐ヶ谷駅」徒歩2分
・東京メトロ丸の内線「南阿佐ヶ谷駅」徒歩5分
杉並区阿佐ヶ谷南3丁目35番21号
tel:03-3220-1111(代表)

「コーディネーター」JIA杉並地域会

「申込方法」
参加希望の方は名を「JIA杉並土曜学校申込」とし、お名前、所属、人数、メールアドレス、電話番号、お住まいの地域(例:杉並区など)を明記の上e-mailでJIA杉並事務局までお申し込み下さい。
e-mail:suginami@jia-kanto.org
※参加には事前申し込みが必須です
定員になり次第締め切らせて頂きます

「お問い合わせ先」
JIA杉並地域会事務局(坂野)
〒166-0004東京都杉並区阿佐谷南3-31-14
株式会社 ベル建築研究所内
TEL:03-3220-5100 FAX:03-3220-5593
http://www.jia-kanto.org/suginami/



5人のパネラーが15分ずつ空き地・空き家の利活用の事例を紹介。その後丸くなってフリー

まちの不動産屋さんから、空き家活用のオーナー、NPOで活躍されているコミュニティを重視した賃貸型集合住宅の住人、空き家のリノベーション設計者と様々な方々の多くの話を聞いて、フリートークの時間も設けた新しい企画となった。

参加者は約40名、次回も空き家・空き地をキーワードに待機児童と絡めての企画としています。

(文責・中村雅子) 2016. 08. 10



アーキテクト・ガーデン2016

まち歩き・見学会

写真家中川道夫氏とめぐる横浜の隠れた歴史撮り歩き
副題—水の中の都市、横浜「関外」旧吉田新田エリアを巡る

主催

建築家写真倶楽部

開催日時:6月18日(土)13時~17時

参加者:15名(JIA5名、その他は一般の参加者)

前回の中川氏の講演に続き、今回は外に出て、氏とともに横浜「関外」—横浜の「関内」駅の南側に広がるエリア、を巡った。

以前は入海でそこを江戸時代、埋め立てたのが吉田新田。

明治期にはその水田も埋め、都市化が進み商業地として栄えたが関内から移った遊郭もあり、戦後は売春や麻薬、外国人風俗のエリアが点在した。

時代を経て、現在はアートを中心にした環境改善の街づくりが行われている。

埋め立て時からある大岡川沿いの一間間口の連続長屋や、緊張のあまり思わずカメラを隠して通りたくなるディープな界隈が今でもある。

戦時中は爆撃から逃れるためのガード下が、売春宿となり、現在は撤去されてコンクリート打放し、そしてリン酸処理亜鉛メッキの外壁などモダンな建物が挿入されている。

中川氏は世界の歴史的都市が変化してゆく風景を追いつけているが、参加者も今回、氏の世界にたっぷり浸かっていた。



■開催概要

日時：2016年6月22日（水曜日）18：30～21：00 会場：建築家クラブ

参加者：56名

■登壇者

本間純（アーティスト）、伊藤嘉朗（建築家）、山本想太郎（建築家）

■プログラム

「アート」をキーワードとして、アーティストや建築家がまちや地域と直接関わるような活動は、いまでは数多く見られるようになりました。それらがまちづくり、地域活性化の成果の観点で議論されることは多いのですが、その一方でアート表現、建築表現として何を生み出しているのか、積極的に発信されることは少ないように感じます。

本シンポジウムでは、そのような活動を行ってきた3人のアーティスト、建築家が、そのなかで体験したこと、生み出そうとした表現、さらにはこのような活動自体の意味について議論しました。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」（新潟県十日町市）、「AOBA+ART」（横浜市青葉区）のほか、各登壇者がまちや地域と関わりながら展開したアート・建築の事例を画像で紹介しました。

■トーク概要

<第一部>大地の芸術祭

・新潟県十日町市で開催されている「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」の概要について、山本想太郎による説明。

・「大地の芸術祭」における、各登壇者の活動を順に紹介。

本間純：「森」「メルティングウォール」「100年前」「見えない村を目印にして」

伊藤嘉朗：「小さな家～聞き忘れのないように」「ツールド妻有」

山本想太郎：「空家プロジェクト」「妻有田中文男文庫」「建具ノモリ」「清津倉庫美術館」

<第二部>その他のまちでの活動、今後の展望

・その他の活動展開

本間純：「AOBA+ART」「小金町バザール」 個展「無名の国」

伊藤嘉朗：「千住屋台計画」「建築ツアー」「みちのいろ作戦」他

山本想太郎：「はたのいえ」「みちの名前プロジェクト」

・登壇者によるトークセッション

リレーショナル・アート論と地域のアートイベント、建築とアートの関係性、まち・社会との関わりの中でアートがより重要な役割を果たしていく可能性などについて議論が行われました。

（文責：デザイン部会長 山本想太郎）



左より、本間純、伊藤嘉朗（敬称略）



山本想太郎



会場風景

【日時】 2016年6月25日(土) 13:00-15:00

【会場】 LIXILショールーム東京7階イベントルーム

今年度住宅部会は、建築家の職能を真正面から捉え、建築家の本質、理念をわかりやすく市民に伝えていこう、暮らしから考えたらこんなデザインができる、家にとってデザインとは何か？

デザイン力が暮らしを変える、というテーマにてセミナーを進めています。

周辺環境から文化を読み解き、敷地の特殊性、通風、採光、家族の居場所、温熱環境、コストも含めて広義の意味でのデザイン力が住宅を変えるという内容をコーディネーター役の僕が進行。

その後周辺環境から考えるデザイン、家族の居場所をデザインするという内容についてスライドを交えて、部会の高橋さん関本さんを講師に3人のディスカッションにより「真の温かさを感じていける住まいを求めて、建築家は施主の暮らし向きと文化もデザインしていく」という話をさせていただきました。

会場の皆さんからの質問もいただき建築家のデザイン力が暮らしを変えるという本質的なセミナーができたかと思えます。

住宅部会 片倉 隆幸

第3回 (2016.06.25)

16' LIXIL SUMAIセミナー第3回 デザイン力が住宅を変える ～周辺環境から住まいについて考える～



講師：

高橋隆博 (アトリエ秀)

関本竜太 (リオタデザイン)

LIXIL [SUMAIセミナー] part.23
 公社) 日本建築家協会 関東甲信越支部 住宅部会

コーディネーター：

片倉隆幸 (片倉隆幸建築研究室)

【日時】 2016年6月1日(水) 18:00より

【会場】 建築家会館本館1階ホール

第5回「街かどトーク」はアーキテクトガーデン参加プログラムとして青木英二目黒区長を迎え、「区長が語る目黒の街づくり」と題し、建築家会館1階大ホールにて行われた。

講演内容は予め地域会がお願いした

- ①「安心、安全な街づくり」
 - ②「今後の区有施設の在り方」
 - ③「減少しつつある民有地の緑化対策」
 - ④「建築4団体との防災協定の今後の在り方」
 - ⑤「目黒区景観条例、景観大賞の創設」
- の5つのテーマでお話し頂いた。

①に関しては低層街並の推進や木密地域不燃化進捗状況。

②は年間200億の区の財政負担を軽減させていくために、効率の良い建築の複合化や民間委託を視野に改善を図りたい。

③は緑比率を現状の17%から20%へ引き上げる事を目標とした。ポケットパーク等の用地も確保したいが、用地不足で難航している。

⑤については、他区の例も挙げられ、区が景観の優劣を決める事への懸念を話されたが、地域会としては景観アドバイザー制度の認知度を上げ、区民の共感を得る事が出来れば、区民参加型の景観大賞創設が出来るのではないかと考えている。

JIA目黒地域会 代表 木村丈夫



区政を語る青木区長



参加者一同との記念撮影

【開催日】2016年5月28日（土） - 29日（日）

【会場】芝浦工業大学 芝浦キャンパス8階

2016年5月28日、芝浦工業大学 芝浦キャンパス8階を会場に第25回JIA東京都学生卒業設計コンクール2016が開催されました。

今年は東京都内にある20大学から46作品の推薦を受け、辞退作品1作品を除く45作品を審査対象に公開にて審査が行われました。

今回の審査には審査委員長に山本理顕氏、副審査委員長に三谷徹氏、審査委員に城戸崎和佐氏、山代悟氏、末光弘和氏にお願いし、様々な視点からの講評をいただきました。

来場者も総数で200名近くへののぼり、たくさんの方に学生の今をお伝えする事ができたと思っております。



審査風景



受賞者・審査委員集合写真

日時： 2016年6月4日(土)～7月2日(土)4週間

場所： 新宿西口プロムナードギャラリー

参加者： 出展「ミケランジェロ会」会員18名 見学：新宿駅西口広場を通る方々

新宿駅西口を通る多くの方々が目にできる場所が「新宿西口プロムナードギャラリー」です。通常は2週間の展示になりますが、今年は次回展示グループが無かったので4週間の展示となりました。ここにJIA関東甲信越支部部会の「ミケランジェロ会」が絵画(水彩、油彩)、写真、書等の展示を行い、建築家協会をアピールしました。今年は18会員が56作品を展示しました。国内・海外の風景画が最も多く出品されました。昨年秋のスケッチ会では寅さんで有名な葛飾区の柴又を訪ねて柴又帝釈天などのスケッチを行い、今春には皇居の東御苑で桃華楽堂(今井兼次設計)などを題材にしてスケッチしました。



皇居スケッチ会後の反省会



新宿西口プロムナード展 搬入後の講評会

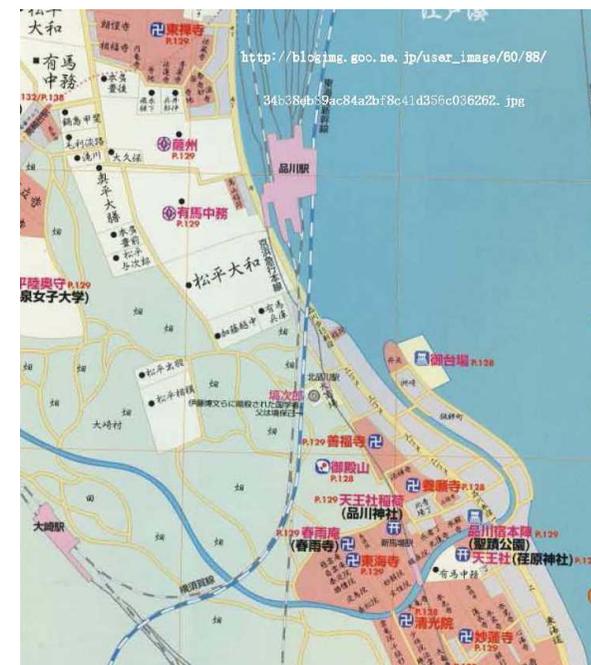
開催日時：6月4日(土)13:00～17:00／気象：薄曇り後一時雨27℃ 63%

これまで城南散歩は四本の河川、崖線、運河、延焼遮断帯計画道路等が実施されどちらも興味深く地域の地勢を感じる上で大きなインパクトがありました。
これによる認識は当地域会のまちづくりの活動に大いに参考となるところです。

第5回フォーラムでも取り上げられた当地域の多様な地形が織りなす生活の多様性をさらに深掘りする機会になると考えて城南散歩を企画しました。

今回、16年度最初の城南散歩は昨年10月の「大森海岸から羽田まで」に続く旧海岸線第2弾です。城南地域では大森を境に北側へ続く地形は急激に台地と海岸線が狭まってきているところで江戸城へ向けて旅立ちます。東海道第一番目の宿と言われるものの、江戸中心部からも近く大名屋敷や寺社仏閣も多く歴史の名残を多く残す場所です。

一般の参加者を含め9名による踏破となり、工程はほぼ当初予定通り、
大森海岸駅 → 品川区民公園 → 森が崎(旧処刑場跡) → (旧東海道を北上します) → 立会川 → (京浜運河) → 鮫洲 → 青物横丁 → 旧品川宿商店街・・・全工程≒4.2kmとなりました。



品川宿古地図＋現代の鉄道
(出典：Google Chrome)



品川区民公園



街道が祭りの舞台に



川向うの荏原神社



アーキテクト・ガーデン2016

まち歩き・見学会

「目白・池袋」に近代化の足跡を探す

主催

住宅部会

【日時】 2016年6月4日(土) 14:00-18:00

【場所】 目白駅-池袋駅間

参加人数：一般20名

関東甲信越支部住宅部会では、市民住宅講座として、一般の方々を対象とした「まち歩き」を年2回おこなっています。コース設定のための下見に数回でかけ、関連した資料収集をメンバーで手分けして、当日の配布資料の作成を行なっています。

前回は、明治初期に「西洋文明」を取り入れ、その後の日本の発展に多大な影響を与えた外国人居留地の「築地」でした。

今回は、江戸時代に郊外地だった「目白・池袋界隈」がコースで、大正から昭和の初期に「近代化」していく足跡を探す「まち歩き」でした。

都心と郊外地の2つのエリアは、どのように時代のつながりを感じさせてくれたか。一般参加者へのまち歩きのサポートを行ない、まち歩きの楽しさ、時代と社会が密接に都市と建築に関係し、その集積がまちの魅力になっていることを、参加者とともに共有した「まち歩き」でした。



中野地域会では、アーキテクトガーデンの一環として、一般の人にも声を掛け、6月4日に「中野まちあるき」を開催（参加者7名）。

東中野駅を起点に、山手通りを南に下り、中野氷川神社で宮司さんの解説を聞き、江戸名所図會にも出ている旧宝仙寺三重の塔（寛永年間に建築、戦災で焼失）の石碑などを見学したあと、白玉稲荷神社を西に入り、旧中野町役場跡や山政醤油醸造所の煉瓦塀など中野坂上の史跡を訪ねた。

さらに、油（あぶ）又（また）味噌醸造所の近くで青梅街道に出て西に歩き、慈眼寺、鍋屋横丁の繁栄の跡などを見て歩く。

さらに杉山公園から南へ、十貫坂上を経て、洋館西片邸（大正十年築）、阿波屋呉服店、五（ご）柱（しゃ）五（い）成（なり）神社を見て解散。

青梅街道沿いのこのエリアは、鉄道が開通するまで、中野の産業の中心地であり、特に鍋屋横丁は杉並の妙法寺参道の起点として、また、井草・鷺宮からの農産物の運搬道の分岐点として賑わった場所であったことが再認識された。

普段何気なく目にしている街の各処の歴史が紐解かれ、かつての中野の繁栄の地を偲ぶ街歩きとなった。

J I A 関東甲信越支部 中野地域会
代表 小西敏正



山政醤油醸造所煉瓦塀



かつて鍋屋横町の追分にあった慈眼寺の馬頭観音

【日時】2016年6月18日（土）14：00-17：00

【場所】渋谷駅桜丘地区

渋谷地域会ではめまぐるしく変化する渋谷駅周辺再開発に注目し「渋谷駅の記憶」というテーマで解体寸前の地区を街歩きし、記憶に留める試みをしている。

今回のテーマ地区は「渋谷駅桜丘地区」で当地区市街地再開発組合の理事でエリアマネージャーの田中要市氏の解説を受けながら渋谷ヒカリエにある再開発完成模型まえからスタートし工事中の道玄坂地区、南街区をまわり、FMステーションの渋谷ラジオスタジオに乱入？桜丘地区内に入り、昭和初期に建てられたアパート見学、街区を丹念に見て回り大和田の文化センターのカフェに到着休憩、レクチャーがあり解散という日程であった。

桜丘地区は企業や自治体主体の渋谷駅再開発の他地区とは異なり60程度の一般地権者をかかえ、その開発プロセスや13mの土地の高低差をカバーした建築計画などみどころ満載である。

プロジェクトは解体直前の秒読みに入った段階でライブ感あふれるイベントは参加人数18名、猛暑の中のツアーとなった。

柳田英一
TIMESHIP柳田建築計画室



6月25日(土)の午後、江戸城の外濠をはさんで隣接する千代田地域会と新宿地域会が、はじめての協働企画イベントとして、市民の参加によるまち歩きを実施しました。「外濠」は、両地域会にとって懸案のテーマです。江戸期からの豊かな水辺空間が残された貴重な環境を継承し、どう活かしていくか、また、外濠周辺の起伏に富んだ地形の上に、先人たちはどのように都市空間を展開し、使いこなしてきたか。共に歩いて観察を共有するまち歩きです。

まず、法政大学市ヶ谷田町キャンパス・マルチメディアホールで、新宿区文化観光課学芸員の北見恭一氏と法政大学エコ地域デザイン研究センター兼任研究員・高道昌志氏の講義で、外濠をめぐる空間の歴史的な成り立ちを頭に入れた後、2時間余りの都市観察に、両地位会の会員その他の建築家、学生、一般市民、総勢21名で出かけました。

外堀通り沿いを市ヶ谷見附橋まで辿り、橋を渡って反転、外濠公園の土手伝いに新見附橋へ、まずは外濠と道路・鉄道敷きによって広々と展開する「表」を観察します。続いて、法政大学市ヶ谷校舎の裏手、富士見坂から千代田区の「裏」の坂道の探索ルート歩きます。続いて、牛込見附橋を渡って新宿側へ。神楽坂の人混みを抜けて東京理科大学神楽坂地域デザインラボに立ち寄り、伊藤スタジオの学生諸君の「牛込御門の復原設計と周辺環境の再構築計画」をはじめ、外濠、神楽坂等に関する提案の模型展示を、製作者の学生の説明付きで拝見。最後は、新宿区の市ヶ谷高台の諸町の「裏」道を経て、再び田町のキャンパスへ。予定を大幅に過ぎて帰還したため、「まとめ」のディスカッションは割愛することになりましたが、散会後の有志による親睦会では、意外性のある地形に各自多くの再発見があったこと、適切な解説があったおかげで、景観の歴史性への理解ができたことなどが語られ、実りの多いまち歩きであったと振り返ることができました。今後の両地域会の連携への確かな手掛かりとなる意見交換もできました。

共催に加わり、講演会場などの便宜を図ってくださった、福井恒明教授・高道昌志研究員ほかの法政大学エコ地域デザイン研究センターの皆様、土曜日にかかわらず開場していただき、総出で温かく迎えてくださった、宇野求教授・伊藤裕久教授ほか、東京理科大学神楽坂地域デザインラボの皆様、そして新宿区の北見恭一学芸員にお礼を申し上げます。

(千代田地域会副代表 市川達夫)

法政大学市ヶ谷田町キャンパスで座学



外濠公園の土手にて



東京理科大学神楽坂地域デザインラボで 神楽坂2丁目路地裏の坂道



日時：2016年7月3日(日)
場所：世田谷区成城～瀬田

プログラム概要

世田谷区には景観法に基づく風景づくり条例があり世田谷区独自の活動をしています。その一つは景観ではなく風景という言葉を使い、景観が人間の営みであるということを表現しています。もう一つは区民との協働で、風景の保全に関していくつかのことが挙げられますが、その中で大切にしたい風景を構成する地域風景資産というものを区民の推薦で選定し、それを守り、育て、つくることを風景づくりという言葉で定義しています。地域風景資産の選定は平成14年度に始まり、3回の選定を経て現在86が選定されています。世田谷地域会では本年度のアーキテクトガーデンにおいて、そのうち15の地域風景資産を、活動団体のご案内で体験する街歩きを計画しました。7月3日(日)は梅雨の中晴れで気温も高く、決して街歩きにふさわしい天候ではありませんでしたが合計39名の参加がありました。内訳は一般14名、JIA15名、区2名、活動団体解説者8名というものです。参加の皆様お疲れさまでした。



地域風景資産1-28成城の近代住宅



地域風景資産1-27成城3丁目緑地



地域風景資産1-26慶元寺三重塔の見える風景



地域風景資産2-29畑の間の土の道

見学会当日である7月23日の参加者は一般5名(内小学生1名)会員7名解説者として集落調査に携わった宇都宮大学の大学院生2名の総勢14名による見学会でした。

単体としての大谷石建築は大谷地区や市内にいくつも点在していますが、群としての大谷石建築は市内には無く、宇都宮の西部と北部にあります。調査を行ったいくつかの集落のうち、今回は北部にある集落密度の高い芦沼集落と、用水路と石塀が美しい上田集落を中心に見学を行いました。

芦沼集落は幅5mの道の両側に高さ5mの作業蔵が立ち並びそこはまるでイタリアの田舎を思わせる風景でした。上田集落は道の両側に用水路が走り、水路際には大谷石の塀が続き、とてもゆったりとした気分させる風景でした。

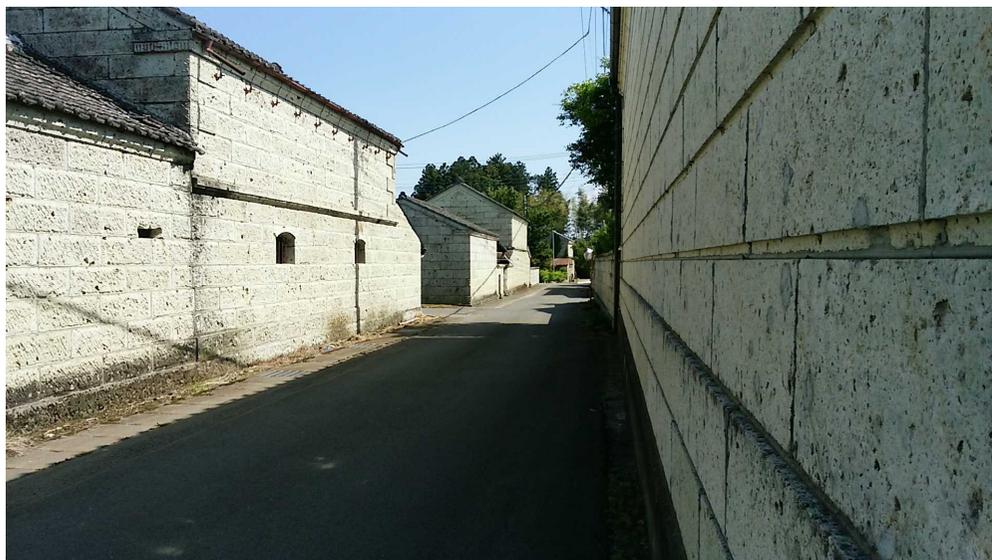
単体の大谷石建築しか知らない見学者にとって初めて見る集落の風景はとても新鮮だったようで、調査を行った担当者の解説を直接聞く事で大谷石集落の特徴などについて良く理解できたようです。

集落見学の後は北部に位置する大谷石蔵を利用した個人美術館である「和気史郎記念館」を訪れました。故和気史郎は幽玄の世界を得意とする洋画家です。かつて肥料商を営んでいた生家の石蔵が素朴で素敵な展示空間となっています。

参加した小学生は大谷石を夏休み研究のテーマにするそうです。きっと大学生に負けない内容になると思います。

帰り道立ち寄った酒蔵で地酒を土産にして帰路につきました。

暑い日でしたがとても有意義な1日でした。



芦沼集落



上田集落